

令和4年度 第1四半期（2022年4月～6月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=23 事業所(回答率 92%)

2. 調査対象期間

今期=2022 年 4 月～6 月

- ・前年同月比=前年同期(2021 年 4 月～6 月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2022 年 1 月～3 月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2022 年 7 月～9 月)の見通し

3. 調査期間 2022 年 6 月 15 日～6 月 24 日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が 0 より上の場合=景気は上向き

DI値が 0 の場合 =景気は横ばい

DI値が 0 より下の場合=景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲26.0 で、業種別にみると「建設業」が▲19.8 で最も高く、「製造業」「サービス業」が▲20.0 で続いている。

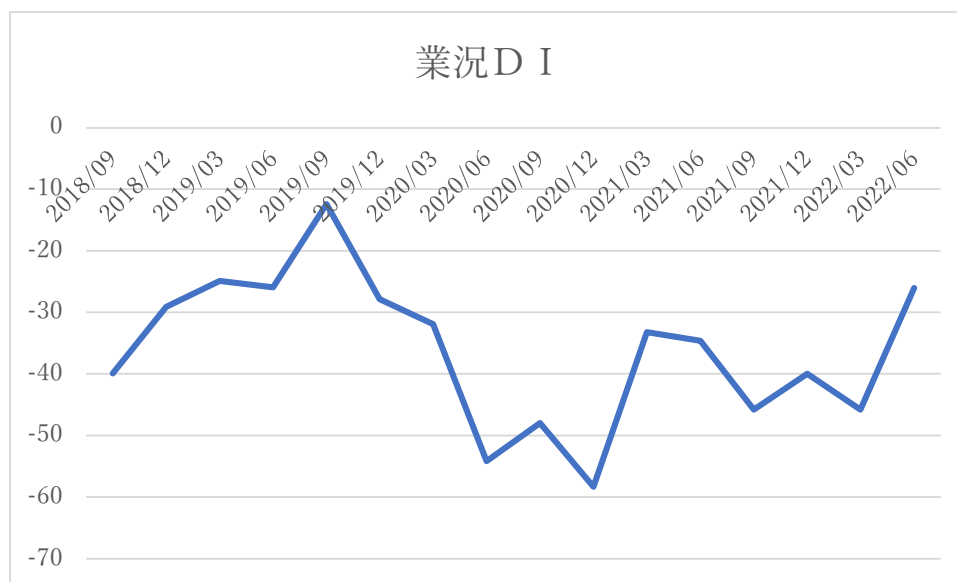
先行きは 4.4p悪化の▲30.4 で、業種別では「卸売業」「小売業」「サービス業」で横ばい、「建設業」「製造業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2022 年 1～3 月期 (前回調査)	前期比	2022 年 4～6 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 7～9 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲43.9	↘	▲26.0	↗	▲30.4	↘
建設業	▲40.0	↗	▲19.8	↗	▲20.0	↘
製造業	▲39.8	↗	▲20.0	↗	▲40.0	↘
卸売業	▲59.8	↗	▲50.0	↗	▲50.0	→
小売業	▲20.0	↘	▲25.0	↘	▲25.0	→
サービス業	▲60.0	↘	▲20.0	↗	▲20.0	→
(参考)全国全産業	▲32.7	↘	▲20.3	↗	▲20.8	↘
(参考)東北全産業	▲42.8	↘	▲26.9	↗	▲25.5	↗

※(参考)は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



（２）売上高DI

売上高DIの現況判断は▲43.4 で、業種別にみると「サービス業」が▲20.0 で最も高く、「小売業」が▲25.0 で続いている。

先行きは 17.4p 改善の▲26.0 で、「建設業」「製造業」「卸売業」で改善、「小売業」で悪化となっている。

図表 2 売上高DI

	2022 年 1～3 月期 (前回調査)		2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲55.9	↘	▲43.4	↗	▲26.0	↗
建設業	▲80.0	→	▲60.0	↗	▲19.8	↗
製造業	▲39.8	↗	▲39.8	→	0.0	↗
卸売業	▲59.8	↗	▲75.0	↘	▲50.0	↗
小売業	▲20.0	↗	▲25.0	↘	▲49.8	↘
サービス業	▲80.0	↘	▲20.0	↗	▲20.0	→
(参考)全国全産業	▲23.2	↘	▲8.5	↗	▲10.3	↘

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = (増加の回答割合) - (減少の回答割合)

（３）採算DI

採算DIの現況判断は▲39.1 で、業種別にみると「建設業」が▲20.0 で最も高く、「製造業」が▲39.8 で続いている。

先行きは 4.3p 改善の▲34.8 で、「製造業」で改善、「建設業」で悪化となっている。

図表 3 採算DI

	2022 年 1～3 月期 (前回調査)		2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲40.0	↘	▲39.1	↗	▲34.8	↗
建設業	▲20.0	→	▲20.0	→	▲40.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲39.8	↗	0.0	↗
卸売業	▲39.8	↘	▲50.0	↘	▲50.0	→
小売業	▲20.0	↘	▲50.0	↘	▲50.0	→
サービス業	▲80.0	↘	▲40.0	↗	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲34.7	↘	▲26.8	↗	▲28.6	↘

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

（４）資金繰りＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲8.7 で、業種別にみると「建設業」「卸売業」「サービス業」が 0.0 で最も高く、「製造業」が▲20.0 で続いている。

先行きは 8.6p 悪化の▲17.3 で、「建設業」「卸売業」「小売業」「サービス業」で横ばい、「製造業」で悪化となっている。

図表４ 資金繰りＤＩ

	2022 年 1～3 月期 (前回調査)		2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.0	→	▲8.7	↗	▲17.3	↘
建設業	0.0	→	0.0	→	0.0	→
製造業	▲40.0	↘	▲20.0	↗	▲60.0	↘
卸売業	▲20.0	→	0.0	↗	0.0	→
小売業	0.0	→	▲24.8	↘	▲24.8	→
サービス業	0.0	↗	0.0	→	0.0	→
(参考)全国全産業	▲20.7	↘	▲15.6	↗	▲17.8	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（５）仕入単価ＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲69.6 で、業種別にみると「小売業」が▲50.0 で最も高く、「サービス業」が▲60.0 で続いている。

先行きは 4.3p 悪化の▲73.9 で、「製造業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表５ 仕入単価ＤＩ

	2022 年 1～3 月期 (前回調査)		2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲64.0	↘	▲69.6	↘	▲73.9	↘
建設業	▲60.0	↘	▲80.0	↘	▲80.0	→
製造業	▲60.0	↘	▲80.0	↘	▲100.0	↘
卸売業	▲80.0	→	▲75.0	↗	▲75.0	→
小売業	▲60.0	↘	▲50.0	↗	▲50.0	→
サービス業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲65.3	↘	▲74.0	↘	▲72.1	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

（６）従業員ＤＩ

従業員DIの現況判断は 0.2 で、全ての業種でやや不足となっている。

先行きは 0.1p 改善の 0.3 で、「サービス業」で改善、その他の業種で横ばいとなっている。

図表 6 従業員 D I

	2022 年 1～3 月期 (前回調査)	前期比	2022 年 4～6 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 7～9 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲3.7	↘	0.2	↗	0.3	↗
建設業	0.2	↘	0.4	↗	0.4	→
製造業	0.0	→	0.2	↗	0.2	→
卸売業	▲19.6	↘	0.3	↗	0.3	→
小売業	0.2	→	0.0	↘	0.0	→
サービス業	0.6	→	0.2	↘	0.4	↗
(参考)全国全産業	16.6	↘	16.3	↘	16.7	↗

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = （不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
人手不足、資材高騰、材料遅配等の影響で工期延長、工事高増の影響が出ている。	建設業
夏まつり、秋まつり等のイベントは、中止にすることなく実施の方向で検討願いたい。花火大会が無観客開催となると楽しみや感動が半減し、あまりやる意味を感じない。	製造業
半導体不足のため完成車遅れ。	小売業
コロナ、戦争の影響が大。	サービス業
このままコロナが落ち着き、緊急事態宣言やまん延防止重点措置等が発令されなければ、徐々に戻ってきそうな感じはする。いずれにしろ、まだまだ我慢しなければいけない。	サービス業